

学校法人 高田学苑

高田短期大学育児文化研究センターだより

# IKUBUN NEWS

第12号 2010.6.28

発行 高田短期大学育児文化研究センター

〒514-0115 三重県津市一身田豊野195

TEL059(232)2310(代表) FAX059(232)6317

## 高田短期大学育児文化研究センターのこれから

平成16年10月に産声をあげた本センターも早いもので6年目を歩ませていただいております。子どもの成長に例えるならば小学1年生といったところで、ひとつの区切りを迎えたといえるかもしれません。振り返れば、地域と連携し三重の子育てに役に立てる実践的なセンターとして試行錯誤ながらも活動して参りましたが、今では県や地元津市との連携はもとより各団体とも手を携え、三重の子育てを支援する団体として、地域に根付きつつあるのではないかと考えております。これも、ひとえに皆様方のご理解とご支援のおかげであると感謝申し上げます。

平成22年度は今までに培った実績とノウハウを土台としながら、新たな一步を踏み出したいと考えています。研究・教育機関である大学の付属センターとして、今の三重の子育ち・子育て支援のためにどのように地域と連携し役割を果たしていくのかを今一度考えて事業にあたりたい、そのために地域子育て支援事業として、「本学育児文化室開故事業」、津市との連携事業「子育て応援！元気っ津まつり」、そして研究を行うセンターとしての充実を図った「育児文化研究促進事業」を新規に計画いたしました。

子育ては親だけが行うものではなく、地域で、国で、という時代です。そのために政治、行政はじめ保育所や子育て支援センター、NPOなどが、子どもが育つ、子どもを育てるために必要な役割をまだまだ模索しているといえます。では、高田短期大学育児文化研究センターのこれからは、どのようにあるべきなのでしょう。研究員・客員研究員のみならず、「子育て応援隊」である本学学生とともに活動を行いながら、その答えをみつけていきたいと思っております。

申し遅れましたが、本年度より梶前センター長に代わり、その任を務めさせていただくこととなりました。まだまだ浅学の身であり、センターをリードしていく才覚もございませんが、「子育てはすてきなこと」をモットーにして取り組んでまいります。今後とも、変わらぬご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

育児文化研究センター長 福西 朋子

## CONTENTS

◇ センター長挨拶 ……1頁

◇ 平成二十二年春全体会報告

・平成二十一年度事業報告

・平成二十二年組織・研究員 ……2頁

◇ 平成二十二年事業計画

春季全体会 特別講演概要

「地域連携と子育て・子育て支援」

田部 眞樹子先生 ……3頁

◇ 春季全体会 特別講演概要

「地域連携と子育て・子育て支援」

田部 眞樹子先生 ……4頁

定例研究会報告 ……4頁

◇ 平成二十一年度参画

協力事業紹介 ……5頁

◇ 新入会研究員の紹介

研究員の活動紹介

問い合わせ・アクセス ……6頁



## 高田短期大学育児文化研究センター 平成22年度春季全体会概要

平成22年5月7日(金) 16:30~18:00

## ☆平成21年度 事業報告&lt;平成21年4月~平成22年3月&gt;

1. 育児文化研究センター総会 (5/8)
2. 秋季全体会 (11/18)
3. 定例研究会 (4回開催)
4. 出前講座 (34件)
5. 子育て・子育てを応援する地域支援プロジェクト事業
  - ① 相談事業「子育てママのホッとひろば (子どもの自由遊びと育児相談)」  
参加者のべ37名 (6/27 10/17 講師:橋本景子研究員)
  - ② 「次世代の心を育む手作り絵本 保育教材を作ろう! ー手作り絵本に挑戦ー」  
参加者15名 (7/11 講師:わけびき真澄研究員)
  - ③ 「親と子のための音楽あそびひろば」  
参加者66名 (8/29 講師:福西朋子研究員、木下和美、浦中こういち)
  - ④ 「子どもの心をわくわくさせる絵本」  
参加者95名 (9/27 講師:中井千保子客員研究員、生川はるみ、野呂昌子)
  - ⑤ 「子どもの心を育む絵本の読み聞かせ」 参加者のべ77名  
(10/31 11/28 講師:中井千保子客員研究員、生川はるみ)  
(12/6 1/16 講師:岩附啓子客員研究員、廣瀬玲子客員研究員)
6. 子育て応援隊  
自治体等外部からの要請に応じ、本学学生が子ども・子育て関連のイベント等に「子育て応援隊」として、46件、のべ435名参加。
7. 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」  
6月・2月発行 700部
8. 紀要『高田短期大学育児文化研究』第5号 3月発行 300部
9. 育児文化研究センターホームページの管理



『ホッとひろば』



『手作り絵本』



『絵本の読み聞かせ』

## ☆ 平成22年度 組織

センター長	福西朋子					
主任研究員	橋本景子					
研究員 (本学専任教員)	池村 進 榎原尉津子 三宅啓子	上村 晶 鷺見裕子 宮崎つた子	小田義隆 千草篤麿 山崎征子	川喜田多佳子 橋本景子 山本敦子	北川剛司 平田祐子 わけびき真澄	小池はるか 福西朋子 鷺尾 敦
客員研究員	池上綾子 田中厚好	岩附啓子 中井千保子	大蔵香代子 朴 恵淑	太田和子 廣瀬玲子	駒田聡子 望木郁代	田口鉄久 大西眞純

以上 研究員18名、客員研究員12名

## ☆平成22年度 運営委員

福西朋子 橋本景子 千草篤麿 上村 晶 池村 進 (センター事務) 川村みや子

## 平成 22 年度 事業計画&lt;平成 22 年 4 月～平成 23 年 4 月&gt;

1. 春季全体会 5月7日(金曜日) 16:30～18:00  
特別講演 「地域連携と子育て・子育て支援」  
講師 田部 眞樹子先生(三重県子ども NPO サポートセンター理事長)
2. 地域子育て支援事業「育児文化室 地域開放事業」
3. 地域子育て支援事業「子育て応援! 元気っ津まつり」
4. 育児文化研究促進事業  
研究員・客員研究員による研究を助成します。
5. 紀要「高田短期大学育児文化研究」第6号(3月発行)  
研究員・客員研究員の研究成果の場となっています。
6. 定例研究会(年3回)  
第1回: 7月7日(水) 大西眞純客員研究員  
第2回: 10月13日(水) 三宅啓子研究員  
第3回: 1月19日(水) わけびき眞澄研究員・上村 晶研究員
7. 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」  
年2回発行(6月・2月)、育児文化研究センターの最新情報を発信しています。
8. 仏教文化センター連携事業「仏典童話人形劇」出前講座  
年3回: 7月、11月、3月
9. 子育て応援隊  
要請に応じて随時派遣
10. ホームページ  
活動の「お知らせ」・「活動内容」を随時掲載
11. 秋季全体会  
平成 23 年度事業計画について



**春季全体会 特別講演 地域連携と子育て・子育て支援**

**講師 田部 眞樹子先生** (三重県子ども NPO サポートセンター理事長)

平成 22 年 5 月 7 日(金)、春季全体会の特別講演として、17 時 05 分より 18 時まで、三重県子ども NPO サポートセンター理事長の田部眞樹子先生を講師にお招きし、「地域連携と子育て・子育て支援」というテーマで講演が行われました。次に内容の一部を紹介します。

### 1. 子どもの権利主体について

子育てや子育てとは何かという命題を考えて行くにつれ、子どもは自ら育つ力があるのではないかという結論にたどりついた。それはチャイルドラインという電話相談事業を行う中で、「気持ちを聴く」ことの重要性和共に、指示や主体性が失われていく危険性を感じたからでもある。

人は権利主体が育っていないと、人の権利を平気で侵す。具体的には、①権利主体を侵す、②無責任、③差別意識の3つが挙げられるが、無意識のうちに侵していくことで、相手の人格を侵していることに気づかないケースが多い。そこで、幼少期から権利の問題を個人の中に落とし込んでいく子育てが重要なのではないかと考える。

また、子どもの意志を無視しないことは、子どもの権利を保障することに繋がる。子どもと自分とは



別人格であることを認識することは、子どもの主体性を大切にすることと繋がる。このことを大人や社会が身につけていくことが大切である。そして、子育てはまず「子育て」を基本とすることが重要であると考えている。

## 2. 子育ての社会化について

高田短大も今後大学という場で地域とどう連携していくかが課題になっていくはずである。大学は宝物を多く抱えているので、いろいろな大学・NPO・行政と連携ができれば、社会を変えていけるのではないだろうかと考えている。

## 3. 自己肯定感の考え方について

今の子どもたちは「できる・できない」の世界で生きており、条件付きで愛されてきている傾向がある。自己肯定とは、その子どもの存在そのものを見つめており、「あなたがいること」に対してOKであるという捉え方をし、条件がない。「～だからあなた大切」という言葉を聞くが「～だから」という枕詞を取ればその人の存在が認められるだろう。人間は何にもできなくても価値がある。存在することに意味があり、そのことが認められるから頑張れる。



愛とは何かを考える際、全部含めて受け入れることだと考えている。あばたをえくぼにするのではなく、あばたはあばたでOKとすることである。自分のすべてを受け入れると自分の度量が増えていく。現代の子どもはマイナスは受け入れられないが、マイナスがあってもよい。「自己肯定アンケート」を昨年実施した際、自己肯定意識を持っている子どもは高校生で25%、小学生では50%弱であった。「自分のすべてを好き」というように考えられるようになっていくことが大切なのではないだろうか。

ご講演をいただき、特に「子育ての社会化」の内容で、子育て支援団体は数多くあるが、各団体が主体をしっかり持ちつつ、互いに手を携えネットワークを作っていくことが、できれば子育てに理想的な社会になるということに、本センターとしての主体は何なのか、地域に果たすべき役割とはということに改めて問わなければならないと考える機会ともなりました。

～ ～ ご多忙の中、ご講演いただきありがとうございました。 ～ ～

## 定例研究会

平成21年度、第26回(2/17)の定例研究会の報告です。

**テーマ：後期造形表現指導法の授業から —表現者からのメッセージ—**  
提案者：田中厚好客員研究員

先生の日展での作品を解説していただいたことで、造形表現指導法の授業の中にも日頃の社会に取り入れられているのだということがよくわかりました。



印象的だったのは『平板な家族』という題名の「そっぽを向く母親」「我関せずとタバコを吸う父親」「それを支えようとしている子ども」つまり、家族を支えようとしているのはこどもだけ、という彫刻作品でした。作品には表現者の心が表れ、思いのまま表現することでひとつのエピソードも生まれてくるということです。そこから短い詩が生まれたり表現者の感性を育てることにつながり、それは学生の心を育てることにもつながると感じました。



平成 21 年度センターとして参画、また協力を行ったフォーラム、イベントのようすを次に紹介します。

### 子どもの権利フォーラム・マタニティ フェスティバル

平成 22 年 2 月 27 日（土）・28 日（日）に三重県総合文化センターで開催された「子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル～子どもの権利は胎児から～」に、センター長はじめセンター運営委員、研究員、子育て応援隊の学生が参加しました。基調講演を始め、いのちの授業や海外の子育て支援プログラムについてなど、さまざまなプログラムが催されました。センターとしては梶前センター長はコア会議から実行委員として企画・準備・運営に関わり、



妊娠期からのふれあいあそび

プログラムの「妊娠期からの楽しいふれあいあそび たまご・にわとり」に上村研究員、「パパあそぼ! あそびをつくろう」に小田研究員が講師として、



パパあそぼ!

「マタニティコンサート～ちいさな音楽会～」に福西、山本研究員が演奏者として関わりました。各プログラムには子育て応援隊である子ども学科 2 年生数名も参加をし、「保育」「子育て」を間近に感じることができました。

「子どもの権利は胎児から」というスローガンのもと開催された今回のフォーラム、フェスティバルに参加をし、また、新たな視点での子育て、子育て支援についての発見があったことと多くの参加団体と関わらせていただくことで、地域におけるセンターの位置づけについても考える機会となりました。

### 親子で楽しむ馬フェスタ

平成 22 年 3 月 22 日（祝）高田学苑主催、育児文化研究センター協力で「馬とふれあう親子ひろば IN 高田パーク 2010」が開催されました。本フェスタは毎年、恒例で開催していますが今回は、高田中・高等学校のグラウンドとともに新設された高田中・高等学校馬場での開催でした。馬場新設に伴い、新しく馬が数頭仲間入りをしました。



フェスタには親子・家族約 270 名の参加があり、暖かくなった春のひとときを馬とともに楽しく過ごして頂きました。内容としては、オープニング、馬術部員による馬



術演技、「馬車でお散歩」「ポニーに乗ろう」「ロディ君であそぼう」「バルーンでお馬づくり」「蹄鉄の輪投げ」「写生大会」「紙芝居」「ふるまい豚汁」など多彩な催し物やコーナーでにぎわいました。

センターの運営委員はじめ子育て応援隊として子ども学科の学生も参加をしました。厩の中で馬に囲まれ「スーホの白い馬」の読み聞かせをしたり、馬のバルーンを子どもたちとともに製作したり、また、子どもたちが馬を写生するサポートや出来上がった素敵な絵を表彰したりと大活躍の子育て応援隊でした。



## 新入会研究員の紹介と研究員の活動紹介

### 宮崎つた子 研究員（新入会）



今年度、子ども学科に着任し「乳児保育」「保育内容-健康」などを担当させて頂いております。子育ての環境も時代の流れと共に大きく変化し、保育者に求められるニーズは多様化しています。本学の保育者養成教育の中で、子どもたちに安心感・安定感を与え、子どもの変化に気づける観察力を身につけ、科学的な根拠に基づいた健康教育を共に考えていきたいと思っております。今後も育児文化センターの活動を通して社会貢献できるよう微力ながら努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

### 山本敦子 研究員（活動紹介）



子ども学科にて、音楽とレクリエーションの授業を担当しております。これまで当センターの子育て支援講座や幼稚園・保育所での出前講座において、歌あそびやミニコンサートなどの活動を進めてまいりました。また昨年度は絵本の読み聞かせ講座の企画運営に携わり、子どもさん親御さん方と絵本を交えて楽しい時間を過ごさせていただきました。赤ちゃんからお年寄りまで世代を問わず生まれ、元気と安らぎをもたらしてくれる「音楽」の力を生かし、今後も地域の皆様のお力になれるよう努めてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

### 北川剛司 研究員（新入会）



4月より、本学子ども学科で「教育の方法・技術」「言葉表現指導法」「保育内容-言葉」「保育内容研究」の授業を担当させて頂いております。保育の現場は多様化しています。ある園では通用した保育方法が、違う園では通用しないということもよくあります。そこで、保育者はできるだけ多様な保育方法にふれて、自身の保育の幅を広げることが求められます。本学での保育者養成にあたっては、授業で日本の保育方法について取り上げるのはもちろんのこと、海外の保育についても積極的に取り上げて、多様な保育方法に触れる機会をつくって参りたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

### わけびき真澄 研究員（活動紹介）



センターの研究員として子どもやその保護者を対象に造形活動をご指導させて頂くことがあります。その際、時折感じるのが、子どもと保護者の作品に対する思いのギャップです。人は大人になると綺麗な結果を良とする傾向があります。しかし、子どもたちはそんなことはお構いなしに造ることを考え、楽しみ、そしてそれを認められる喜びを味わいながら成長していきます。そもそも子どもたちは、ピカソやミロといった偉大な画家たちがリスペクトしたほどのものづくりの天才です。そんな彼らの素晴らしい活動を、我々大人の価値観で縛ることなく、素直に感じ続けたいものです。

## センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター  
住所 〒514-0115  
三重県津市一身田豊野 195  
高田短期大学  
Tel (059) 232-2310 (内線 123 番)  
Fax (059) 232-6317  
Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



（編集後記）  
センターも今大きく変わろうとしています。保育の専門家として研究と実践を重ね、地域の皆様に還元していきたいと考え、今年度は新プロジェクトを進めております。今後ともどうぞご協力・ご支援をよろしくお願い致します。（R・H）